



## 5. プログラム

【第1日目 10月15日(土)】

---

◎自由研究発表 9:30~12:10 発表 20分、質疑応答 10分 \*3題発表後、10分間休憩

### 第1会場 司会 間瀬茂夫(広島大学)・守田庸一(三重大学)〈2201教室〉

- 1-1 「話すこと・聞くこと」の評価に関する研究の成果と課題  
伊井 健(関西学院大学大学院・院生)
- 1-2 高等学校国語科における論理的思考力の育成  
—トウルミンモデルの裏付け(B)に着目した実践開発—  
重田 和希(群馬県立万場高等学校)
- 1-3 合意形成をめざす話し合いにおける折り合いのつけ方とその変容  
—小学校2年生の授業実践をもとに—  
廣口 知世(京都ノートルダム女子大学)
- 1-4 論理的思考の壁を乗り越えるための論理的文章の授業提案(小学校)  
長谷川 祥子(青山学院大学)  
西山 悦子(東京都台東区立東泉小学校)
- 1-5 教科の学びを社会につなぐ国語科 CR メソッドの開発(1)  
—意識・実態調査、アセスメントテストの結果から—  
澤口 哲弥(神奈川大学)

### 第2会場 司会 足立幸子(新潟大学)・河野順子(白百合女子大学)〈2202教室〉

- 2-1 小学校国語科・論理的文章教材の研究 —小学5, 6年を例にして—  
小川 智勢子(埼玉県三郷市立吹上小学校)
- 2-2 中学校国語科における読書生活の将来展望を描くための実験的研究  
—読書マップを活用した授業の分析を通して—  
安田 みのり(京都教育大学大学院・院生)
- 2-3 映像を用いた読書感想文指導  
石津 恒哉(兵庫教育大学教職大学院・院生)
- 2-4 「読み合い」による読みの交流の足場づくり  
西田 太郎(東京福祉大学)
- 2-5 国際学力調査におけるデジタル読解力  
足立 幸子(新潟大学)

### 第3会場 司会 富安慎吾(島根大学)・中村和弘(東京学芸大学)〈2203教室〉

- 3-1 「伝統的な言語文化に親しむ」学習指導における VR 教材の活用可能性  
—「扇の的」の授業実践を通して—  
新村 涼一(松本市立筑摩野中学校)

- 3-2 日中の中学生が書いた漢詩鑑賞文に関する比較研究  
ー相互交流における感想の分析に基づいてー

CHEN XIN(筑波大学大学院・院生)  
細田 広人(筑波大学附属中学校)

- 3-3 国語科と英語科の連携授業から学習者は何を学んだか  
ー振り返りの自由記述の分析ー

榎木 貴之(北海学園大学)

- 3-4 漢字に関する学習内容についての検討  
ー生態学的意味論の視点からー

富安 慎吾(島根大学)

#### 第4会場

司会 住田勝(大阪教育大学)・松山雅子(四天王寺大学)〈2205教室〉

- 4-1 国語の授業における多様な言葉の学びのあり方  
ー授業の出来事を捉えるマイクロエスノグラフィーを通してー

康 優理香(東京大学大学院・院生)

- 4-2 Global Perspective, Awareness of Diversity, Critical Thinking, Respect for Different Opinions  
ーPanel Discussion on "Own Language" and "Own Culture"ー

Yang Lihwa(横浜市立豊田中学校、慶應義塾大学・院生)

- 4-3 家族の多様性を学ぶ小学校国語科教育の考察

塚本 彩乃(関西学院大学大学院・院生)

- 4-4 アーノルド・ローベル「おてがみ」の教材可能性  
ークィアの視座からー

明尾 香澄(エリザベト音楽大学)

木村 季美子(奈良県立添上高等学校)

上田 楓(無所属)

- 4-5 国語教科書における〈病気〉という題材  
ー「いのち」と出会う小学校国語科授業実践にむけてー

吉岡 尚孝(関西福祉科学大学)

#### 第5会場

司会 吉川芳則(兵庫教育大学)・児玉忠(宮城教育大学)〈2109教室〉

- 5-1 他者とのつながりを生み出す詩教育の実践  
ー世界観のアンテナを焦点としてー

田中 智也(広島大学大学院・院生)

- 5-2 私の創作児童詩実践報告  
ー「イメージ辞典」から「私」のことはへー

佐々木 豊(太成学院大学、兵庫教育大学大学院・院生)

- 5-3 エクフラシスの応用による表現力育成の可能性  
ー視覚芸術の描写を通して身につける豊かな言語感覚と表現力ー

高松 美紀(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

- 5-4 子どもの”今”をみとり次の学びを描く国語科授業づくり

—ことばへの「感度・理解・拡充」の視点からみた書くことの学習—

岡田 博元(お茶の水女子大学附属小学校)

本田 祐吾(お茶の水女子大学附属小学校)

5-5 高等学校国語科における英語俳句を用いた授業実践

—「主体的・対話的で深い学び」実現に向けて—

石井 明子(東京都立新宿高等学校)

**第6会場**

司会 植山俊宏(京都教育大学)・甲斐雄一郎(文教大学)〈2207教室〉

6-1 文章構成指導の固定化とその形成過程

—「はじめ・なか・おわり」の出現と要因—

都筑 航(早稲田大学大学院・院生)

6-2 教科横断的な思考力の育成を目指す中学校「書くこと」の授業設計と実践

—中学2年生の実践から見えてきたこと—

鈴木 佑亮(ベネッセ教育総合研究所)

小野塚 若菜(ベネッセ教育総合研究所)

藤井 泉浩(明星中学校・高等学校)

6-3 共同推敲によって獲得できる読み手意識に関する研究

—文章産出過程における児童同士の対話を分析して—

堀口 史哲(立教女学院小学校、東京学芸大学大学院・院生)

6-4 ICTを活用した中学作文授業における学習者の実態

—タイピング記録システムを用いた書く過程の把握に基づいて—

高井 太郎(宇都宮大学)

6-5 ジャンル(文種)研究

—2000年以降の動向—

佐渡島 紗織(早稲田大学)

**第7会場**

司会 阿部昇(元秋田大学・東京未来大学)・鶴田清司(元都留文科大学)〈2208教室〉

7-1 生活文指導は「書けなさ」をどう受け止めてきたか

—日本作文の会の実践事例に着目して—

永井 ほのり(広島大学大学院・院生)

7-2 大西忠治の文学教育論の特質

—西郷文芸学との比較を通して—

海老原 拓実(早稲田大学大学院・院生)

7-3 国語科単元学習における「学習の手引き」の一考察

—遠藤瑛子実践「もうひとつの世界—『千と千尋の神隠し』の扉を開く」に焦点をあてて—

増永 雄一郎(宝塚市立末広小学校、兵庫教育大学大学院・院生)

7-4 野口芳宏指導理論2

—「教授・学習の記号段階」を援用した文学教材での鑑賞指導の比較研究—

柳谷 直明(芦別市立啓成中学校)

- 7-5 『学習指導要領 国語科編(試案)』(1947年度版)の成立過程  
ー日本側担当者・石森延男の到達点と限界ー

宇賀神 一(西九州大学)

## 第8会場

司会 上谷順三郎(鹿児島大学)・坂口京子(静岡大学)〈2111教室〉

- 8-1 語りに着目した読みの深まりに関する研究

村高 聡子(広島大学大学院・院生)

- 8-2 「逆向き設計」論を用いた小学校中学年文学教材単元の学習指導過程モデルの構築

川上 健治(兵庫教育大学大学院・院生)

- 8-3 伝記教材でヘレン・ケラーはどう語られてきたか

ー戦後小学校国語教科書を対象にー

金川 麻奈未(兵庫教育大学大学院・院生)

池田 匡史(岡山大学)

- 8-4 児童が主体的に読み、考えを広げ、まとめる力を育む指導の在り方

ー伝記「伊能忠敬」におけるICEモデルを基軸とした授業実践を通してー

明比 宏樹(愛媛県今治市立常盤小学校)

- 8-5 音読台本の作成過程において学びの深まりを目指した実践的研究

ー「スイミー」教材を活用して人物の心情や場面の様子をとらえるためにー

藤田 智之(京都教育大学附属京都小中学校)

## 第9会場

司会 高木まさき(横浜国立大学)・坂東智子(山口大学)〈2112教室〉

- 9-1 中学古典教育における説話の問題解決性に着目した実験的研究

ー『宇治拾遺物語』の仏法の力に関する比べ読みの授業を中心にー

品川 竜史(京都教育大学大学院・院生)

- 9-2 台湾の古典教育におけるコンピテンシー教育

赫 至琪(広島大学大学院・院生)

- 9-3 源氏物語絵巻の詞書(ことばがき)と絵を活用した古典指導プログラムの開発 その一

ー絵巻の文学性の検討ー

山田 丈美(中部学院大学)

- 9-4 戦後国語教科書における古典教材のなかの「説話」

井浪 真吾(岡山理科大学)

池田 匡史(岡山大学)

- 9-5 「見る」を含む学習の系統性(11)

ー源氏物語「御法 一紫の上の死」ー

坂東 智子(山口大学)

◎昼食 12:10~12:50(※理事・シンポジストの先生方には昼食を用意します)

◎理事会 12:50~13:50

〈大会議室〉

◎総会 14:00~15:00

〈2101 教室〉

◎シンポジウム 15:10~17:40

〈2101 教室〉

新しい実践学としての国語教育学を探る -教職大学院における国語教育研究のあり方-

シンポジスト 佐藤多佳子(上越教育大学)

針尾有章子(京都府総合教育センター)

横田経一郎(植草学園大学)

コーディネーター 植山 俊宏(京都教育大学)

【第2日目 10月16日(日)】

---

◎課題研究発表 9:30~12:00

〈2101 教室〉

国語教育学研究を見通す① -国語教育学研究、これから10年間のビジョン-

登壇者 甲斐雄一郎(文教大学)

中村 敦雄(明治学院大学)

山元 隆春(広島大学)

コーディネーター 竜田 徹(佐賀大学)

◎昼食 12:00~13:30(※課題研究発表の先生方には昼食を用意します)

◎若手研究交流企画 12:30~13:30

〈2204教室〉

・「研究発表はまだしないけれど、研究について話してみたい」「他大学の院生や若手教員と話してみたい」「とにかく国語教育の話がしたい」という方向けの交流会です。

・ご自身の教育・研究上の関心や、本大会の発表への意見交換などを行う企画です。これによって、さらに多様性のある研究コミュニティを作ることができればと考えています。途中参加も可能ですので、ふるってご参加ください!

◎自由研究発表 13:40~16:20

発表 20分、質疑応答 10分

\*3題発表後、10分間休憩

第10会場

司会 幸田国広(早稲田大学)・渡部洋一郎(上越教育大学)〈2111 教室〉

10-1 日本語の力が十分ではない高校生が参加する「書くこと」の学習指導の研究

—高等学校国語教科書の検討—

古谷 梨菜(筑波大学大学院・院生)

長田 友紀(筑波大学)

10-2 高等学校1年「現代の国語」指導と評価の実際

金井 大貴(昌平中学高等学校)

10-3 中高一貫を見通した教科横断的な視点に立つ資質・能力の育成に関する基礎的研究

川井 亮(京都教育大学附属高等学校、京都教育大学教職大学院・院生)

- 10-4 高等学校国語科カリキュラムの構築に資する読解テキストの指標について  
—ノンフィクションテキストの難易度に着目して—

大滝 一登(文部科学省)

- 10-5 大学初年次の文章表現指導における詩の鑑賞と創作の指導開発の試み  
—国語科教員養成初期段階への援用可能性—

井口 あずさ(甲南女子大学)

第11会場 司会 府川源一郎(元横浜国立大学)・山元隆春(広島大学)〈2112教室〉

- 11-1 文学の学習における学習者の葛藤と「語り」

橋本 祐樹(世田谷区立等々力小学校)

- 11-2 学習者の抑圧の緩和・解放における文学教育の可能性

南 咲貴子(関西学院大学大学院・院生)

- 11-3 「傷ついた語り手」から考える文学教育の構想—村上春樹の『鏡』を例にして—

雷 民激(広島大学大学院・院生)

- 11-4 「ことば」の限界に立ち合う文学の授業

—「リア王の悲劇」を題材に—

佐藤 宗大(広島大学大学院・院生)

山中 勇夫(広島大学教育学部附属小学校、広島大学大学院・院生)

- 11-5 重層的テキスト空間をもつ文学教材の読みの交流

井上 功太郎(美作大学)

第12会場 司会 中村敦雄(明治学院大学)・藤森裕治(文教大学)〈2207教室〉

- 12-1 「城の崎にて」のクリティカル・リーディングの試み  
—「比べ読み」の手法と「OPPシート」を活用して—

上村 文人(東京都立上野高等学校)

- 12-2 高等学校国語科メディア・リテラシー教育をめぐる「社会的文脈」

—「現代の国語」教科書教材の検討を中心に—

田中 秀憲(都留文科大学大学院・院生)

- 12-3 文学テキストを対象とした高校生の批評文と読みの意識

林 一晟(広島大学大学院・院生)

- 12-4 複数テキストの批判的統合を求める学習指導に関する研究

—大学生が反省性を発揮するプロセスの分析—

村井 隆人(大阪教育大学)

- 12-5 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究

—“Doing Ads”(EMC,2008)における「Levi's 広告」を活用した学習活動を中心に—

羽田 潤(兵庫教育大学)

◎ラウンドテーブル 13:40~16:20

A 会場

〈2201 教室〉

- R-1 (宮澤賢治の妹、宮澤トシ没後100年記念2) 学生の読む「自省録(宮澤トシ)」  
コーディネーター 望月 善次(元岩手大学)

B 会場

〈2202教室〉

- R-2 紙とデジタルの読解比較調査報告  
—「小学校国語科におけるデジタル端末で「深く読む」ための調査・実践研究」中間報告—  
コーディネーター 難波 博孝(広島大学)  
登壇者 黒川 麻実(大阪樟蔭女子大学)  
菅谷 克行(茨城大学)  
豊福 晋平(国際大学)

C 会場

〈2203教室〉

- R-3 日本語書記史からみた古典教育の新しい枠組み  
—国語教育研究と日本語史研究と古典文学研究による共創—  
コーディネーター 森 美智代(福山市立大学)  
登壇者 松崎 正治 (同志社女子大学)  
磯貝 淳一 (新潟大学)  
井浪 真吾 (岡山理科大学)

D 会場

〈2205教室〉

- R-4 DP 言語 A「文学」「言語と文学」・文学作品の選択における観点  
—ジャンル、グローバルイシュー、3つの探究領域をめぐって—  
コーディネーター 中村 純子(東京学芸大学大学院)  
登壇者 岩瀬 丈(昌平中学高等学校)  
杉本 紀子(東京学芸大学附属国際中等教育学校)  
小林 真大(Shanghai Jincal High School International Division)

E 会場

〈2108教室〉

- R-5 国語科教育と(教育)哲学  
—探究的な対話をどう実現するか—  
コーディネーター 渡辺 哲男(立教大学)  
登壇者 山名 淳(東京大学)  
勢力 尚雅(日本大学)  
柴山 英樹(日本大学)

F 会場

〈2109教室〉

- R-6 「言語感覚」育成のこれから  
コーディネーター 山室 和也(国士舘大学)  
登壇者 浅田 孝紀(駿台学園中高等学校・早稲田大学(非常勤))  
米田 猛(奈良教育大学)  
松崎 史周(国士舘大学)

## G 会場

〈2208教室〉

### R-7 アニメーション批評の専門家と国語科との連携で、批評文を学習する試み

ーひろしまアニメーションシーズンにおける、中学生に焦点を当てたアニメーション教材の活用可能性ー

コーディネーター 奥泉 香(日本体育大学)

登壇者 土井 一生(比治山女子中学・高等学校)

田中 大裕(千葉大学大学院・院生)

金田 富起子(国立教育政策研究所)

## H 会場

〈2204教室〉

### R-8 言語文化の学びの系統性をどうつくるか

コーディネーター 稲井 達也(大正大学)

登壇者 高山 実佐(國學院大学)

畑 綾乃(筑波大学附属高等学校)

小川 一美(東京都立小石川中等教育学校)

小沢 貴雄(東京都立豊島高等学校 定時制課程)

## I 会場

〈2206教室〉

### R-9 文学模擬裁判の可能性

ー文学と法と犯罪の間(はざま)から人間を考える国語教育ー

コーディネーター 札埜 和男(龍谷大学)

登壇者 伊東 隆一(京都弁護士会)

宮田 拓(岡山県立岡山操山高等学校(通信制課程))

香西 美紀子(琉球大学・学生)

---

◎公開講座(Zoom ミーティング) 2022年 10月9日(日) 14:00-17:00

#### ICTと国語科授業実践①

ーICTの活用による学習共同体の拡張ー

モデレーター 上山伸幸(創価大学)

登壇者(実践報告) 甲斐伊織(学習院中等科)

登壇者(実践報告) 牧野太輝(千葉大学教育学部附属中学校)

登壇者(指定討論) 若木常佳(福岡教育大学)

※公開講座は、学会の大会当日とは異なる日程で開催します。

※アーカイブ配信はございません。

・公開講座はオンライン(Zoom ミーティング)で行います。  
・千葉大会広報サイトの「オンライン公開講座」のページにある参加申し込み用のフォーム(<https://forms.gle/jlX6ytDos3q4ehUMA>)に必要事項をご入力ください。公開講座の2日前までに、ご登録いただいたアドレス宛に当日のZoom ミーティング用 URL をお送りいたします。

- ・申し込み締め切りは、2022年10月5日(水)23:59です。ただし、定員(250名)に達した場合は、これより早く締め切る場合があります。
- ・公開講座にのみ参加する場合には、学会全体への参加申し込みは必要ありません(無料で参加することができます)。

## 6. 参加にあたっての留意点について

### 【参加者の皆様】

1. 今回の大会は約3年ぶりの対面における研究大会ということになります。ただし依然としてコロナウイルスの感染拡大が懸念される状況にあります。そこで、大会運営にあたっては本学で定めるガイドラインに従って適切な感染対策を徹底し、安心して大会に参加していただけるよう準備を進めてまいります。詳しくは、千葉大学「本学でのイベント・会議・集会等開催基準について」([https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/2020covid-19/post\\_220.html](https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/2020covid-19/post_220.html))をご参照いただければと存じますが、参加される会員の皆様には、とりわけ以下の点にご留意いただきたく存じます。

- ① 健康状態には十分ご留意いただき、以下に該当される方は参加をお控え下さい。
  - 参加予定日の朝の検温で発熱(37.5℃以上)が確認された方
  - 新型コロナウイルス陽性判定を受けている方、自宅待機指示を受けている方
  - のどの痛み、頭痛、関節痛、だるさ、息苦しさ、息の吸いづらさ、咳、下痢、結膜炎症状、味が薄く感じる、味覚障害、嗅覚障害などの症状がある方
  - 過去7日以内に新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある方
  - 過去7日以内に同居のご家族や身近な知人に感染が疑われる方がいらっしゃる方
  - 過去7日以内に入国制限や入国後の観察期間が必要な国・地域への渡航、当該国在住者との濃厚接触がある方
  - 感染防止のための措置や指示に従えない方、感染防止を意識した行動にご協力をいただけない方
- ② ご来場の際には以下から「体調管理チェックシート」をダウンロードして事前に印刷し、ご記入のうえ、受付でご提出ください(1日目・2日目それぞれ提出をお願いします)。

・体調管理チェックシート

[https://drive.google.com/file/d/1LYWsDncpOSdbXXI8YpNwVv2qExw97NIC/view?](https://drive.google.com/file/d/1LYWsDncpOSdbXXI8YpNwVv2qExw97NIC/view?usp=sharing)

[usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1LYWsDncpOSdbXXI8YpNwVv2qExw97NIC/view?usp=sharing)

- ③ 飲食時以外は基本的にはマスクの着用を原則とし、会場入口に設置してある消毒液による手指消毒にご協力いただきます。
  - ④ 会場にて着席する際には、前後左右の間隔に余裕を持ってお座りいただきますようお願いいたします。(場合によってはスタッフの指示により席を移動していただく場合もございます。)
2. 事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方については、大会当日までにご登録いただいた住所に直接送付される予定になっております。  
また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて大会申込者全員にPDF版をダウンロードしていただ

るようにする予定です。ダウンロードの方法につきましては改めてメールにてご連絡いたします。

3. なお、大学構内はフリーの Wi-Fi 環境が整っていません。大学構内で自身のパソコンをインターネット接続したい場合は、各自で Wi-Fi 接続の手段をお考え下さい。
4. 大会運営にあたって急遽予定が変更された場合等につきましては、大会広報サイトにて随時アナウンスいたします (<https://sites.google.com/view/jtsj2022chiba>)。

#### 【発表者・コーディネーターの皆様】

1. 自由研究発表は、発表時間20分・質疑応答10分(計 30 分)となっております(プロジェクターを使用する場合は接続時間も含めます)。
2. ラウンドテーブルにつきましては、一次案内には「1 時間 30 分(予定)」としておきましたが、確定した自由研究発表(2 日目)の時間に合わせ、最長「2 時間 40 分」まで時間を取ることができることにしました。時間の使い方につきましてはコーディネーターの先生方の裁量にお任せいたしますが、他会場における自由研究発表・ラウンドテーブルとの関係上、開始時にタイムスケジュールをまずご提示ください。
3. 自由研究発表・ラウンドテーブルともに、当日資料を用意する場合は、以下の点にご留意ください。
  - ・『発表要旨集』が配付されていることを前提に、要旨原稿との重複を避け、必要な資料にしぼって作成してください。
  - ・会場運営の都合上、できるだけA4サイズで作成いただきますようお願いいたします。
  - ・資料は150部を作成し、発表当日、発表会場(教室)までお持ちください。大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。
4. プロジェクターを使用する場合は、以下の点にご留意ください。
  - ・パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。
  - ・接続ケーブルは用意いたしますが、会場によって RGB か HDMI のいずれかで接続することになりますので必ず両方での接続ができるようアダプター等のご準備をお願いいたします。

## 7. お問い合わせ

千葉大学 寺井正憲

E-mail:terai@faculty.chiba-u.jp

TEL:043-290-2536

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学教育学部 寺井正憲宛

\*問い合わせは Eメールでお願いいたします。

## 8. 会場案内図

### 千葉大学 西千葉キャンパス



#### 教育学部建物名称及び用途

##### ■教育学部

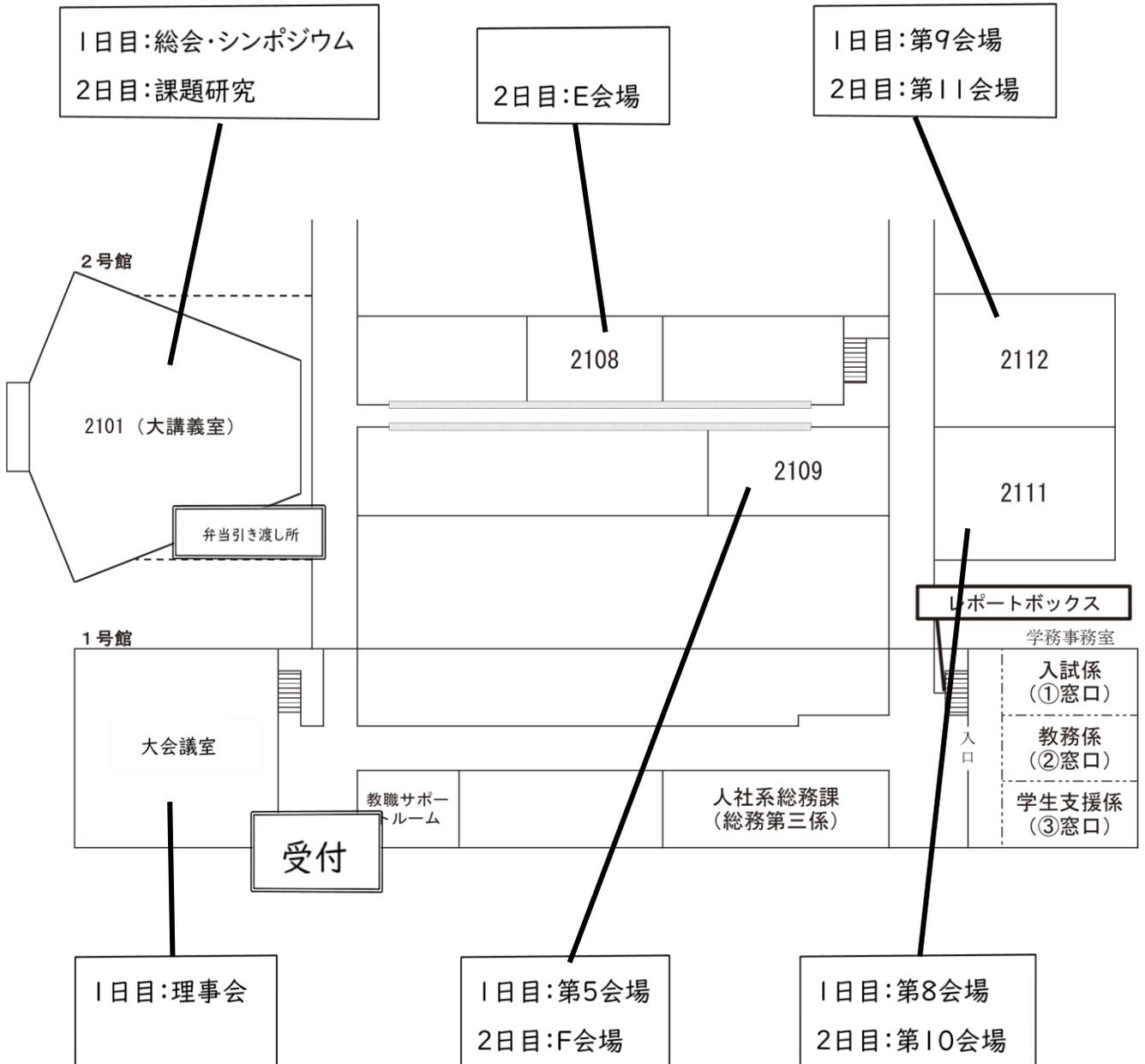
- ① 1号館/事務室・研究室
- ② 2号館/大講義室・教室
- ③ 3号館/研究室及び教室
- ④ 4号館/研究室及び教室
- ⑤ 5号館/研究室及び教室
- ⑥ 音楽棟/音楽室及びピアノ練習室
- ⑦ 弥生創房棟
- ⑧ 附属教員養成開発センター/学内共同研究センター
- ⑨ 附属小学校
- ⑩ 附属中学校
- ⑪ 附属幼稚園

#### 【受付について】

1号館西入口付近に受付を設置します。受付で健康チェックシートを提出し、名札を受け取って入場してください。

## 9. 教室配置図

### 1F平面図



○ お弁当の申し込みをされた方は、大講義室(2101教室)前にてお受け取りください。なお当日の販売はありません。

○ 理事会に出席される先生方は理事会会場(大会議室)にてお弁当をお受け取りください。

○ シンポジウム、課題研究発表に登壇される方の昼食については、それぞれの担当者(コーディネーター)から連絡があります。

2F平面図

